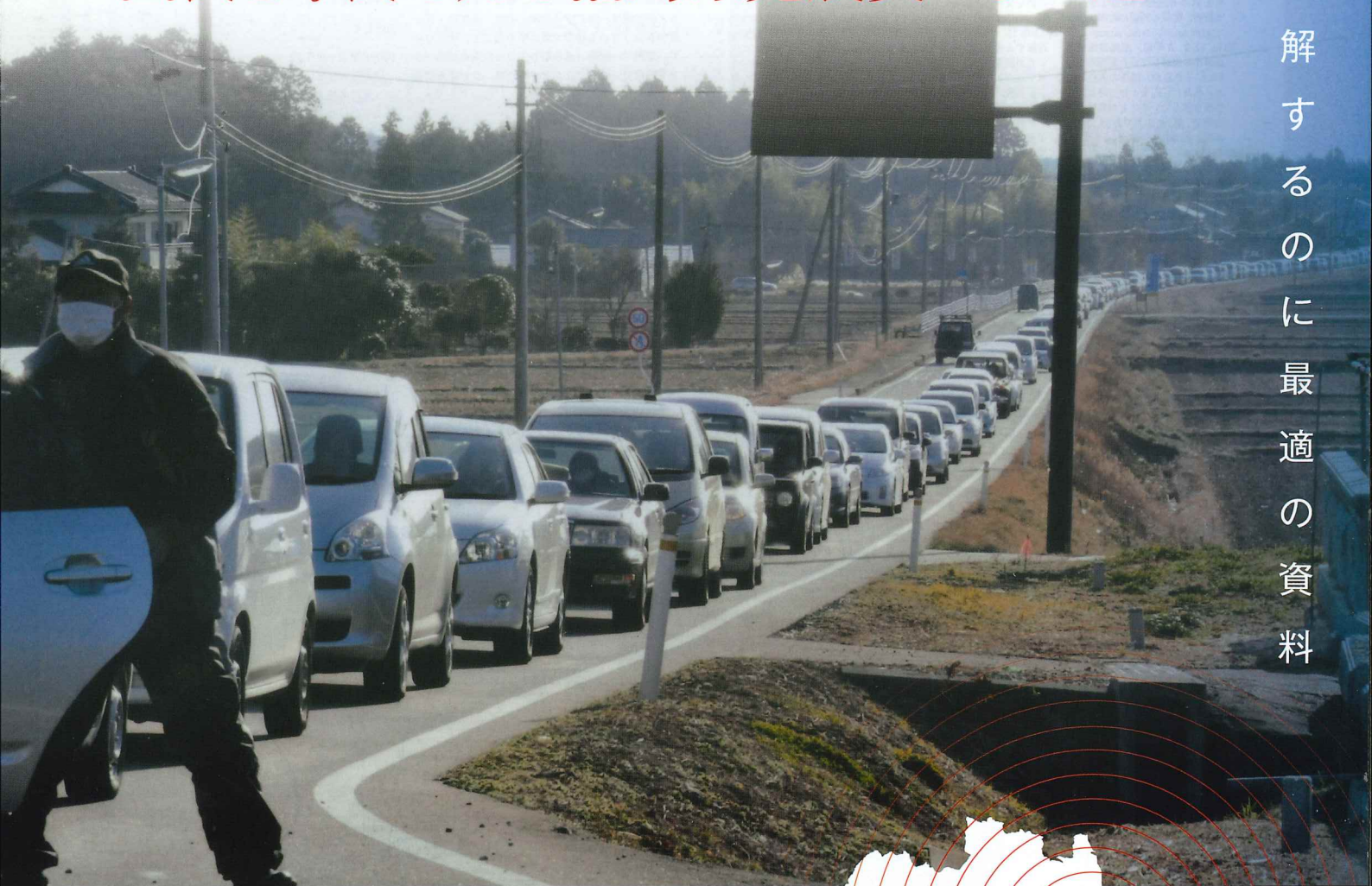


# 原発災害・避難年表

18年3月刊行

— 図表と年表で知る福島原発震災からの道 —

福島原発震災を理解するのに最適の資料



写真提供：福島民報社

授業で使える

●仕様：B5判・函入上製本・総頁数450頁 ●定価：本体（12,000円+税）  
●ISBN：978-4-86369-532-0 ●原発災害・避難年表編集委員会 編

すいれん舎

編集委員 ●堀川三郎 ●竹原裕子 ●平林祐子 ●八巻俊憲 ●森久聡 ●松久保肇 ●深谷直弘

「原発事故による避難した児童生徒に対するいじめ」年表

富岡町 右田藍さん避難年表

「原発事故により避難した児童生徒に対するいじめ」年表

\*年々深刻化する全国的な「いじめ」問題に対処するため、政府は、2013年6月「いじめ防止対策推進法」を「基本方針」を規定するなど対策をすすめていたが、福島原発事故に伴う福島県から他県へ避難した児童生徒に対する差別やいじめの問題が徐々に顕在化し、2016年11月以降、社会問題となった。

2013.6.28 「いじめ防止対策推進法」公布される。(文科省HP:130628)  
 第1回「いじめ防止基本方針策定協議会」開催。第7回(2013.10.11)まで開催。(文科省HP)  
 2013.10.11 文部科学大臣「いじめの防止等のための基本的な方針」を決定(2013.3.14、最終決定)。(文科省HP)  
 2016.6.30 第1回「いじめ防止対策協議会」の開催。第8回(2017.2.1)まで開催。(文科省HP)  
 2016.11.9 原発事故で福島県から自主避難してきた茨城県の中1の男子生徒が、名前に「菌」を付けて呼ばれるなど不登校になっていたことが明らかに。同市教委の第三者委員会がいじめと認定。17日、文科省は避難している子どものケアやいじめ防止対策推進法に基づき対応の徹底を各自自治体の教育委員会に指導。21日、茨城県教委、全市立509校に対し再発防止を求める通知。12月1日、同市教委、生徒の両親に謝罪。(朝日:161110,161118,161122,161202)  
 2016.12.2 5年前、原発事故で福島県から避難していた新潟市の小4の男子児童が、担任の男性教師から名前に「菌」をつけて呼ばれ、学校を休んでいることが判明。同市教委、記者会見で謝罪。(朝日:161202,161203)  
 2016.12.13 千代田区の区立中学校で、原発事故のため福島県から自主避難している生徒が、同学年の3人に、お菓子を合計約1万円分をおごらされたことが判明。(朝日:161213)  
 2016.12.16 福島県から神奈川県内の避難者の裁判を支援する弁

とがある:62%、自分や家族に遭った:18%、周囲で見かけたことがある:44%。18部の184人が回答。(朝日:170226)  
 2017.2.27 福島県から都内にしてきた児童生徒3人、千代田小学校在籍中の2011~15年にめを受けたとして、いじめ防止推進法に基づき通報。(朝日:170228)  
 2017.2.28 福島県から千葉県難し市市内の公立中学校にきた生徒が、別の生徒から「能」と言われるいじめを受けたことが判明。(朝日:170228)  
 2017.3.16 新潟市に避難して小4の児童が、担任の男性教師がいじめを受け不登校となった問題で、新潟市教委、男性を減給、校長を訓告処分。の保護者、原発事故が直接ではないとする第三者委員会書に、「納得いかない」と話(朝日:170316,170317)  
 2017.3.17 原発事故で群馬県避難した住戸らによる訴訟でや東電の責任を認め前橋地裁が、原告の子ども5人につ避難先の学校などからいじめがあり、精神的苦痛を受と認定。(朝日:170322)  
 2017.4.11 文部科学大臣、「東大震災により被災した児童生徒原子力発電所事故により避難した児童生徒へのいじめの防止に」のメッセージ。(文科省HP:170411)  
 松野博一文科相、原発の子どもに対するいじめが、年度に129件、15年度以前事件確認されたこと発表。16年5在、県内外の避難先の学校に子どもは1万1828人。(朝日:170411)

2017年4月30日現在  
 出典:文科省HP:文部科学省、「いじめの問題に対する施策」http://www.mext.go.jp/a\_menu/shotou/seitoshoukyo/1302904.htm (1710更新)

第1部 福島原発震災のもたらしたもの 第3章 避難者たちはどう行動したか——個人避難年表

富岡町・右田藍さん避難年表

2011.3.11 地震発生時

【1人で家にいた】  
 3月11日は高校が休みで1人で家にいた。母が帰宅し、2人で車で家族を探しに回る。「生まれ育ってきた町の様子とはちょっと違って、例えば塀とかガラスが割れて道路に飛び出して来ていたりとか、例えばもう道路自体が落ちてなくなっていたりとか、そういった所があって町の様子が変わっていました」。

3.11 地震直後

【避難所へ】  
 家族は無事なことがわかる。電気・水道・ガスが途絶え、家の中は危険と考え、家族全員でぎゅうぎゅう詰めで車の中で過ごす。夜になって、避難所へ避難(兄の勧めだった温泉施設「リブレ富岡」)。余震でなかなか眠れず。ラジオも携帯もつながらず情報なかった。

2011.3.12

【会津の親戚宅へ】  
 朝、避難所からどんどん人が出ていく。4人家族で車で出発。「どうやら原発がちょっと危ない状態らしい」「それは私たちも急いで逃げなければ」と言って車に乗り込んで外に出ますと、もう既に私がいたところには「すごい車の長蛇の列ができていた」。川内村には寄らず、車で会津の親戚宅へ向かった。近くに住んでいた母方の祖父を合わせて全部で6人と、プリーダーの祖父が飼っていた犬(親犬10匹、販売用の子犬4匹)が2台に分乗。船形経由。窓も開けられず、苦しいドライブ。「富岡町から会津という大体4時間・5時間ぐらで着くんんですけども、朝、富岡町を出て、結局会津の親戚の元に着いたのが夜の11時ごろ」。「閉居間でギューギューなの、ちょっと息苦しいな」とときに窓を開けたいんですけど、でも、窓を開いたら大変なことになると思って、そのまま閉居しちゃう記憶が

夜11時ごろ、普通なら4、5時間であつて会津の親戚宅に、やっと到着。それから親戚宅に滞在。

3.20 過ぎ

【父とやっとなら】  
 震災当時、たまたま出張で富岡を離れていた父が、「やっと戻って来れた」と福井から迎えに来る。

2011.3.27または28

【敦賀市へ移動】  
 「このまま親戚の家にお世話になるのは申し訳ないから、一緒に福井県のほうに行こう」ということで、福井県敦賀市へ家族で移動。

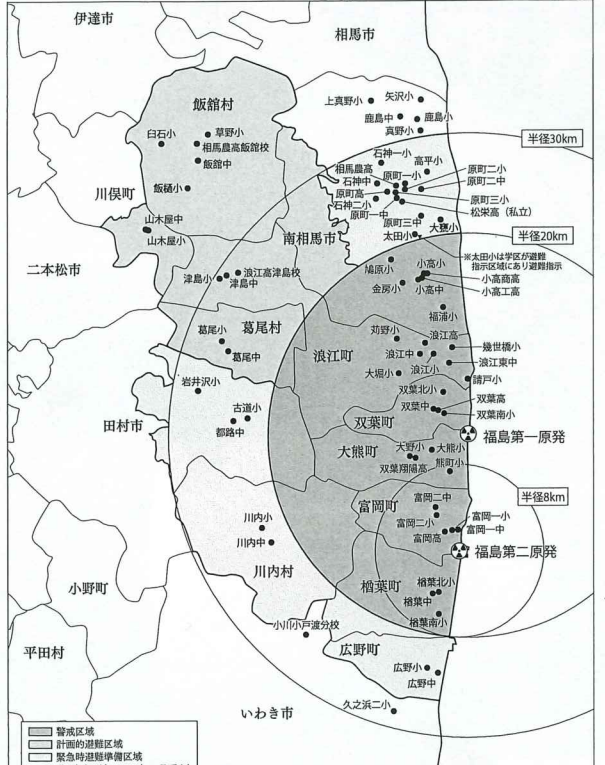
2011.4

【学校の状況わからず】  
 福井県敦賀市に4月以降も引き続き滞在。藍さんは4月に高校2年になるはずだったが、学校から連絡なし。「今、学校ってどんな状態なんだろう?」と不安に思いながら過ごしていました。  
 しばらくして学校から「サテライト校を県内5カ所につくるので、そこで勉強しますか」と連絡がくる。「私の通っていた学科というのが総合学科という、そんなに数が多い学科ではなくて、それを福井県内で探したところ見つからず、『じゃあ、福島県内に戻らなきゃ』となった」ため、サテライト校に通うための福島県内の住居を探すどころも避難者でいっぱいで見つからず。結局、学校と相談して通信で高校2年の勉強をすることになる。

【孤独な通信高校生活】  
 通信で高校の勉強を始めるが、知らない土地で友人もなく出かけることもなく、「父の出張先という縁で行ったものでも知らず誰とも知り合いがいない通信という形なので、学校生活は孤独な感じがする」。

I-2-3 学校・生徒の避難

避難区域の小・中・高校

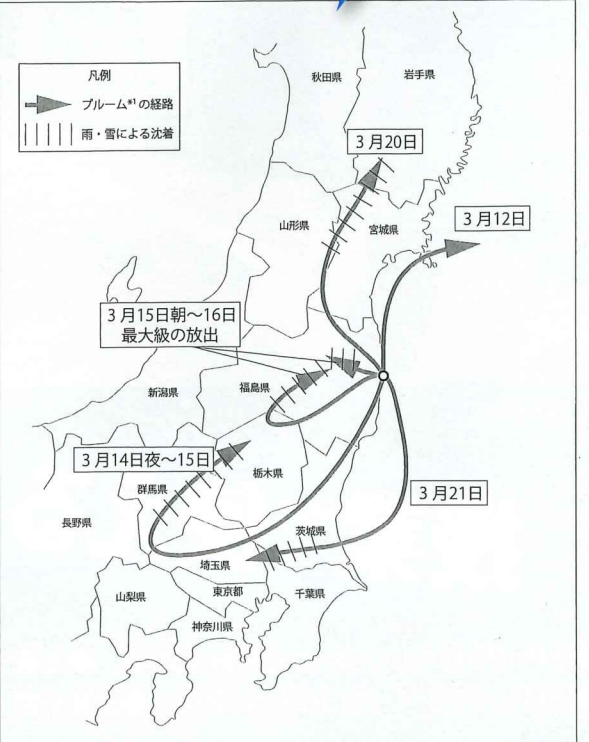


出典:福島県教職員組合,2015,「避難した小中学校の状況」震災・原発事故記録集3・11福島の教職員,77. 福島県教育会館,「教育関係者名簿(2017年)」

避難区域の小・中・高校

第1部 福島原発震災のもたらしたもの 第1章 事故の概要

地上への放射性物質拡散経路



\*1:放射性物質を大量に含んだ空気のかたまり  
 出典:Newton別冊,2014,「検証 福島原発1000日ドキュメント」ニュートンプレス. 中島俊彦ほか,2014,「原発事故環境汚染」東大出版会.

## I 図表・地図・年表で知る福島原発震災の実相

2014年に刊行された「原子力総合年表」の続編として、その後の被害の実相を図表、地図や年表でわかりやすく配列した。原発問題を理解するのに最適の資料。

## II 「個人避難」年表により 避難の個別・具体的問題を描く

本書は福島原発震災の避難に焦点をあてており、さまざまな資料を提供している。中でも家族ごとの避難記録を個人年表という形で提供し、避難の個別・具体的な問題点を描き、その実態に迫ろうとした。

## III 年表という形式での基礎的事実の提供 国内と世界各国の原子力発電の軌跡

福島原発事故とそれに続く避難問題についての基礎的事実を把握できるよう、年表という形式での基礎的事実を提供した。さらに国内21か所の原発施設、世界9カ国・地域の原子力発電の軌跡を30の年表と地図で収録し、すべての記事項目に出典を明記した。

## IV 福島とチェルノブイリの対比資料を多数掲載

「チェルノブイリの歴史・現状は福島の未来なのか」という問題意識のもと、本書は福島原発事故とチェルノブイリ原発事故とのさまざまな図表、地図が多数掲載されて、問題を対比して把握できるようにしている。

## V 原子力関係用語集を巻末に収録

放射線に関する単位や原子炉の型に関する用語集のほか、IAEAとは何か、原子力規制委員会、デブリなど原子力関係で使用頻度の高い用語についてわかりやすく解説した用語解説を巻末に収録した。

# 福島県下全高校の 原発問題アンケート

福島県下全高校の理科、国語、社会科の教員に福島原発事故前後の原発問題意識についてアンケート調査した結果をグラフ、表にまとめたほか約200人の個人意見を収録した。

目次（一部）

### 第I部 福島原発震災のもたらしたもの

#### 第1章 事故の概要

- 事故・事故処理年表●福島原発立地地図
- 原子炉および原発構内図●事故処理・廃炉プロセス
- 放射性物質放出・汚染状況

#### 第2章 被害の広がり

- 住民避難年表●避難・帰還政策
- 学校・生徒の避難●被ばく・健康被害●農漁業被害
- 被災者・救済保障●除染●福島県内高校教員の意識調査

#### 第3章 避難者たちはどう行動したか—個人避難年表

#### 第4章 福島・チェルノブイリ事故の比較

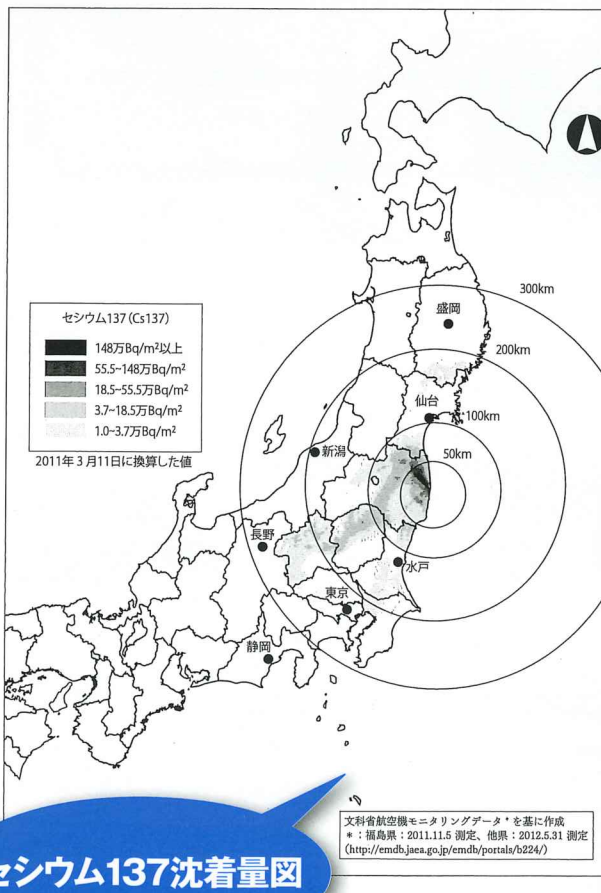
- チェルノブイリ・福島事故年表●チェルノブイリと福島の比較一覧
- 立地および炉構造●放射性物質放出量および汚染状況
- 被災者救済制度の比較●健康被害●食品放射能基準

### 第II部 日本と世界の原子力発電

#### 第5章 日本の原子力発電所および関連施設

#### 第6章 世界の原子力発電所

セシウム137沈着量図



セシウム137沈着量図

## 本書の使い方

2011年3月11日に発生した東北地方太平洋沖地震とそれによる大津波によって起こった福島原発事故により、さまざまな形の被害が広範囲にわたって直接間接にもたらされるとともに、原子力発電の技術とエネルギー政策、そして私たちの生活のあり方を根本から見直すことが迫られています。特に、目に見えない放射性物質が発電所から漏れ出すという事態は、たとえ低レベルであっても、広範囲と長期間におよぶリスクとして社会に影響を及ぼし、一人ひとりの生命や人権の問題とも直結することが明らかになりました。

政府や企業は、原子力発電を社会のエネルギー供給と経済活動の源として役立てようとしてきましたが、その利用に伴う課題は科学や技術の問題であると同時に、私たちの生活や社会の問題でもあり、それらについての考え方が最終的なエネルギー政策の選択に反映されなければなりません。

これらの問題を考えるための基本的なデータ集として、本書は作られました。本書に収録された年表や図表などは、読者自身が主体的に問題を考えてもらうため、客観的な事実のみを掲載するようにし、あえて解釈は提示していません。本書では次のような疑問について学ぶことができます。

1. 福島原発事故はどのようにして起こったのか。
2. 原発事故によりどのような被害が生じ、人々の生活にどんな影響があるのか。
3. 事故後、人々はどのように行動し、その後どうしているのか。
4. 福島とチェルノブイリ原発事故を比較してどんなことがわかるか。
5. 国内や世界各国の原子力発電は、どのように進められてきたのか。
6. 立地地域では、原発の推進と反対についてどのような動きが行われてきたのか。
7. 原子力発電の技術について私たちはどのように考え、どのように対処していけばよいのか。

また本書は、これらの問題をとくに若い人たちに考えてもらいたいとの願いから、学校の授業現場や自習教材として使ってもらうことも想定して編集しました。学校では、次のような観点から授業のテーマを設定することができますと思います。

原子力発電の歴史について  
原発事故および事故処理の実態について  
放射性物質が放出された場合のリスクとその対処について  
原発事故によって生じる物質的・社会的な被害について  
放射能汚染に伴う生活や健康への影響、人権の侵害などの問題について  
メディアやその他の情報の利用の仕方について  
科学知識の利用やリスク・コミュニケーションのあり方について  
自然環境、社会環境、都市環境などの環境問題について  
人間としての社会生活の見直しについて etc.

学習の場としては、社会や理科、家庭など各教科のほか、ホームルーム、総合学習、道徳の時間など教科の枠を超えた時間の利用も考えられます。生徒と教師の皆さんの創意工夫により、多くの方に本書を役立てていただきたいと思います。

株式会社 **すいれん舎**

〒101-0052 東京都千代田区神田小川町3-14-3-601  
TEL. 03-5259-6060 FAX. 03-5259-6070  
E-mail masato@suirensha.jp

取扱店

※キリトリ線

すいれん舎 申込書

**原発災害・避難年表**

本体価格12,000円+税  
ISBN978-4-86369-532-0

冊

**原子力総合年表**

本体価格18,000円+税  
ISBN978-4-86369-247-3

冊

所属先

お名前

番線印(書店用)